

代表 市制二十年の節目 菊川市政を問う 倉部 光世（市民ネット）



市制二十周年令和6年度、継続した職員の意識改革、総合計画の進行政管理を目的とした行政評価システム導入によるさらなる財政健全化を目指し、未来へつなげる年となる。

課題は。

① 地域によっては不公平感を感じている市民もいまだ少なくない。より丁寧な説明、年代や地域などの属性を超えて市民全体が意識を一つにしてまちづくりに参加できるような対応は。

② 学校や施設の統廃合、部活動地域移行等、市民の声を取り入れていく必要性、方向性について。

③ 協働センターの本来業務体制の見直し等、今後の市民協働に対する考え方は。公共施設の利用方法、在り方の再検討、今後の進め方について。

④ 北幼稚園の建替え、おおぞら認定こども園の民営化後、各園の経営状況が平準化されるために、保護者への積極的な情報提供、通園の距離を補う送迎制度導入等を検討する必要がある。今後の幼保体制維持は。

⑤ 本年度NPO活動やワークショップなど概要をまとめたリストを作成。地域との新たなマッチングにつなげるよう中間支援組織である市民協働センターと連携し「協働により『住んでよかった、住み続けた』地域づくりを実現できるまち」を目指して取り組む。公共施設の目的外的使用許可は、現在、行政財産の目的外使用許可事務取扱要領の策定を進めている。策定後は共通基準に基づき申請手続等が以前より分かりやすくなり、公共施設を利用した市民活動の活性化につながる。地区センターは利用団体登録を実施し、適正な利用となっているか確認及び是正指導を進める。都市公園は、使用者のニーズを受け止め安全に使用され周辺住民の理解が得られるように内規をまとめている。

⑥ 職員の意識改革、職員の作業改善十か条の浸透状況は。男性の育休取得状況や働きやすい環境整備について、ハラスメント等意識調査の結果も含め進捗状況、成果、今後の



⑦ 市内17園は食育など、それぞれ特色がある。園の魅力、特色をうまく発信できるもの、誰でも通園制度も令和8年度からの本格導入に向け国の状況を把握し各園と協議を進める。少子化により利用定員に満たない園は、利用定員見直しを行い、経営状況の平準化を図っていく。